

## 令和2年度 第1回都島区区政会議まちづくり・魅力部会 会議録

1 日時 令和2年8月31日（月）午後7時～午後8時40分

2 場所 都島区役所 3階会議室

### 3 出席者

（区政会議委員）

山田委員・田淵委員・早光委員・西村委員・能勢委員・寺川委員

（都島区役所）

大畑区長・谷口副区長・宮本政策企画担当課長・金森まちづくり推進課長

松井防災地域活性担当課長・笠谷政策企画担当課長代理・中尾政策企画担当課長代理

### 4 議題

- (1) 令和元年度運営方針の振り返りについて
- (2) 都島区将来ビジョン2025について
- (3) その他

### 5 会議次第

- (1) 開会（大畑区長挨拶）
- (2) 議事

#### 【笠谷政策企画担当課長代理】

それでは、定刻となりましたので、これより区政会議第1回まちづくり・魅力部会を始めさせていただきます。

委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます都島区役所総務課政策企画担当課長代理の笠谷でございます。よろしくお願いいたします。

それでは初めに、区長の大畑よりご挨拶させていただきます。

#### 【大畑区長】

どうも皆さん、改めまして、こんばんは。区長の大畑でございます。

平素は、市政、区政全般にわたりましてご理解、ご協力ありがとうございます。

また、今日は新型コロナ禍の中、それぞれ皆さん様々な点で大変な思いをされていると思います。そん

な中、ご多用の中ご出席いただき本当にありがとうございます。

都島区としてもいろんなイベント、催物を計画していたんですが、このような状態ですので、今現在は区内のほとんどのイベントや催物を中止せざるを得ない状況ではあります。そんな中、前回この部会が2月27日ですので、約半年ぶりに皆さんにお会いするという形で、何とかこういう3密を避けるような形で部会を今日開催することができました。

前は情報発信についていろいろとご意見いただきました。また、地域のつながりの大切さという点も話をさせていただきました。今日は、令和元年度の振り返りと今後のビジョンについて話をさせていただければというふうに思っています。また、淀川連絡線の跡地についても少し進捗のご報告等できればというふうに思っております。

本日も実りある会議になりますように、皆さんどうぞご協力お願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

#### 【笠谷政策企画担当課長代理】

ここで、委員の皆様にご会議の進行につきましてお願いがございます。議事録等の作成のため、事務局で会議の様子を録音、撮影させていただいております。また、本日の会議はインターネット配信を行っております。以上、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

それでは、定足数の確認をさせていただきます。本日の会議には、委員定数6名のうち6名が出席されておりますので、定足数を満たしておりますことをご報告いたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。まず、ホチキス留めの右肩に資料1と振っております「元年度 魅力発信・創出の取組 振り返り」という資料、A4縦両面3ページになっております。続きまして、右肩に参考資料と振っております「みやこじまレポート2019」、ホチキス留めの冊子でございます。さらに、資料2と振っております「(骨子案)「安心のまち、人がつながるまち、明日に誇れるまち」都島区将来ビジョン2025」の冊子です。最後に、右肩に資料3と振っておりますA4縦の「その他 淀川連絡線跡地の区民広場(仮称)について」という資料、併せて本日座席表のほうもつけさせていただきます。以上が本日の資料になります。そろっておりますでしょうか。

なお、本日は議員の皆様におかれましては欠席のご連絡を受けております。

それでは、これより寺川議長に議事運営をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

#### 【寺川議長】

皆さん、こんばんは。寺川です。よろしくお願いいたします。

この新型コロナ禍の折、皆さんお集まりいただきましてありがとうございます。なかなかこういう機会でご議論するのが大分減ってきたかと思いますが、今回ようやくこういう場を設けることができましたので、非常にいい機会として皆さんのご協力もいただきたいというふうに思います。

これから議事、議題として三つありますけれども、特に今回、方針の振り返りとビジョンについてということですので、恐らく皆さんもこの間いろいろ考えておられること、感じておられることもあるかと思っておりますので、積極的にご意見いただければと思います。

では早速ですけれども、議題(1)にあります令和元年度運営方針の振り返りについて事務局のほうか

らご報告をお願いいたします。

#### 【宮本政策企画担当課長】

政策企画担当宮本でございます。座って説明させていただきます。

資料1をご覧ください。「元年度 魅力発信・創出の取組 振り返り」、経営課題3、明日に誇れるまちづくり、戦略「魅力あるまちづくり」から魅力あるまちづくりを抜粋しています。めざすべき将来像、まちの魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたいと思うとともに、多くの人々が訪れたい、住みたいと思う状態を目指し取り組みました。具体的取組としまして、区の魅力発信、計画、与謝蕪村・毛馬きゅうり等、区の歴史・文化などの魅力を発信する。また、ビーチバレー女子大会等を共催するほか、イベントの側面支援を通じ、民間活力による水辺のにぎわいづくりなどを進め、魅力向上につなげる。取組実績としましては、ケーブルテレビやYouTube等を活用した魅力発信、城北公園通駅高架下アートプロジェクト2020への協力、桜ノ宮ビーチフェスティバルへの協力、ビーチバレー大会の共催など。指標としましては、YouTube都島区チャンネル上の区魅力発信動画の再生回数を上げさせていただきました。これまでのビーチバレー大会に加えて、地引き網やビーチスポーツを体験できるビーチフェスティバルなど民間主体のにぎわいづくりが着実に進んでいる。また、YouTubeやケーブルテレビ等での積極的な魅力発信を行った。YouTubeの再生回数は30年度を上回ったが、目標値には達しなかったため、今後、新規動画の制作等により、さらなる区の魅力発信に取り組むと自己評価しております。

具体的取組3-1-2としまして、区の特色ある文化資源を活かした青少年育成では、計画、世界的な音楽家「貴志康一」をはじめ、区の特色ある文化資源を題材に、プロから作品理解・表現方法の指導を受け、地域の芸術文化に関する豊かな感性を持った青少年を育成する。取組実績としまして、中学校の吹奏楽部、合唱部を対象に指導。4中学校、計17回実施。指標としましては、地域にゆかりのある芸術文化に対する興味がより深まったと感じる生徒の割合としましたが、目標には至りませんでした。新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、発表会の開催など一部事業を中止した。プロによる芸術文化の技術指導を行ったが、基本的な技術指導にとどまり、地域にゆかりのある芸術文化に対する興味が深まった参加者割合が目標値の事業撤退基準を下回り、作品理解までには至らなかったことから、元年度をもって終了すると自己評価しております。

2ページ、3ページをご覧ください。取り組みにつきましては、参考資料1「みやこじまレポート2019」では17ページから19ページに当たります部分を、この2ページと3ページで紹介させていただきます。

1番、ケーブルテレビやYouTube等を活用した魅力発信。ジェイコム生放送番組「ええ街でおま！」で都島区を特集。8月には桜ノ宮ビーチ、蕪村通り商店街の紹介など、3月には藤田邸跡公園などを紹介させていただきました。ビーチバレーをはじめ水辺を活用したイベントや、区の魅力発信動画をYouTubeや区役所正面玄関のデジタルサイネージ等で紹介。

2番、城北公園通駅高架下アートプロジェクト2020への協力。大東まちづくり協議会を中心に、JRや専門学校協力の協力の下、駅前高架下壁面に落書き防止及び魅力創出のため、アートペイントを実施。アートデザインは専門学校生により、都島区、旭区の歴史・文化資源を取り入れた内容に。都島区は桜、コスモス、与謝蕪村など、旭区ではハナショウブ、平太の渡しなどを題材とさせていただきました。

桜ノ宮ビーチフェスティバルへの協力。大阪府や民間団体等と連携して、地引き網、ビーチスポーツ体験、水上さんぼなど、既存のイベントを初めて同時開催させていただきました。参加者は約1,000人。各イベント単体での開催に比べて大幅に参加者は増加いたしました。

4番、ビーチバレー大会の共催。岬町淡輪で開催される「全日本ビーチバレー女子選手権大会」の上位入賞4チームによるトーナメント実施。地域交流プログラム。地元学校・保育士チームも参加して、トップ選手とミニゲーム等により交流。産官学連携イベント。フェイスペイント体験、共同募金付ラムネの販売。観戦者は約1,200人となりました。

5番、その他、吉本との包括連携協定に基づく取り組み。区住みます芸人の活用。活用実績は、元年度19件。区民まつり、夏祭り等地域交流イベントや成人のつどいなどに活用いたしました。産地直笑祭の開催。桂文枝さんが、与謝蕪村など都島区の特徴を盛り込んだ創作落語を披露。300名の方が集いました。

説明は以上です。

**【寺川議長】**

ありがとうございます。

ただいま事務局から説明がありましたが、内容につきましてご質問とかご意見いただきたいんですが、いかがでしょうか。これは元年度の活動についてということなんですが、ちょうどコロナでいうと年末から2月、3月ということなので少し重なってはいるので、そのあたりの影響は出ているかと思うんですが、元年度の活動を振り返ってということで、ちょっとご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

これでいうと3-1-2が影響を受けたというようなイメージですか。

**【宮本政策企画担当課長】**

コロナの影響で……

**【寺川議長】**

中止したというのはこれですね。

**【宮本政策企画担当課長】**

はい、そうですね。一つ中学校が全く参加ができなかったような事態がありました。

**【寺川議長】**

なるほど。そのほか影響を受けたものとしては。

**【笠谷政策企画担当課長代理】**

この青少年育成の事業なんですけれども、各中学校の吹奏楽部、合唱部に指導のほう、プロの音楽家のほうが入らせていただいて、その成果を発表会という形で、昨年度は区民センターでそういった開催を3月に予定していたんですけれども、まさに3月でコロナの関係で開催できずに、指導で終わってしまったというのが去年の実態です。

**【寺川議長】**

発表する場がなかったということですか。

**【笠谷政策企画担当課長代理】**

そうですね。その前の年はベルファのほうで野外で一応発表をしたというのが実績なんですけれども。

【寺川議長】

アートペイントは、これはコロナ前ですか。

【笠谷政策企画担当課長代理】

そうですね。実際絵を描く作業は2月から入っておりましたので、大体2月中にほぼ絵のほうは完成しておりましたので、完成の式典というかちょっとしたものをしたのは3月に入っていますので。

【寺川議長】

あまりおおっぴらにはできなかった。

【笠谷政策企画担当課長代理】

そうですね。

【寺川議長】

なるほど。いかがでしょうか。委員の皆さんご意見。

【山田副議長】

中学校の吹奏楽部、せっかくそこまでされているのであれば、来年度発表するような場は考えはないんですか。

【宮本政策企画担当課長】

この事業につきましては、貴志康一とか文化資源を題材にということで、そこまでの広がりがあればこの事業でということになるんですけれども、どうもそこまで至らない、中学生にとってそこまで至らない、吹奏楽だけで終わってしまう、練習だけで終わってしまうというところで、この事業としてはここで終わり、終了ということで。

【寺川議長】

ということは、発表の機会があるなしにかかわらず、一定もうここで終了したらどうかという判断。

【宮本政策企画担当課長】

そうですね、はい。題材がちょっと難しいようなんですね。うちで音楽家というと貴志康一になるんですけれども。

【寺川議長】

そのあたり皆さんいかがですか。

【能勢委員】

私ももったいないなど。せっかくやりかけて、もしかしたら、作品理解までに至らなかったということは、至るような何かもう少し方法があったのじゃないかとか、中学生の10代の子たちにもっと興味を持てるようなやり方というのもあったんじゃないかなど。勝手な感想ですけど思ったりもしたんですが、その辺はどうなのでしょう。

【寺川議長】

発表の場とか、披露するとかつながりの計画としてはもう少しいろいろ検討できたんじゃないか。

【能勢委員】

貴志康一という音楽家の紹介とか作品の理解というようなところをどう中学生の人たちに分かって

らえるようにするやり方だとか、それと発表の場とうまくもう少しつなげていければ興味をもっと持ってもらえたんじゃないかな。せっかくやりかけて終わるといのは中途半端な感じがするんですけど。

**【寺川議長】**

そのあたりいかがですか。やっぱりちょっとしんどい感じですか。今言われたように少し工夫すれば可能性があるのかどうか。

**【笠谷政策企画担当課長代理】**

まずこの事業の趣旨自体が、今までも、部署は違うんですけども教育委員会なりがそういった事業でクラブの生徒さんにプロの方を派遣して指導するという事業は過去にもされていたんですけども、今回難しく区CM予算と書いてあるんですけども、これ分かりやすくいうと予算が大阪市の経済戦略局という部署が区の特徴ある文化資源を生かして青少年を育成するというまさにタイトルどおりなんですけれども、こういったことをめざすために各区で事業展開してくださいということで、区の予算ではなくて経済戦略局の予算から下りてきていまして、趣旨自体が文化資源を生かしたというところがポイントになってきますので、そうすると、中学校の吹奏楽、合唱部の生徒さんにプロの方から指導するというのは、私も見学に行きまして非常にいい、細かく丁寧に、なかなかそういう機会がないので、顧問の先生方も非常に喜ばれているんですけども、ただ、やはりどうしても予算的なものでいうと2回、3回ほどしかできないんですけれども、そうすると、どうしてもプロの方からすると、貴志康一の楽曲に行く前に、本当に基本的なきれいな音を出せるという、そこをやはり基本を押さえる形になってきますので、そうすると、学校によっては差がありまして、本当に一から生徒さんの指導が必要な場合もありますし、ある程度成熟している部活のところでしたらいきなり貴志康一の曲からも入れるんですけども、なかなか2回、3回の授業の中で貴志康一という、区の文化資源という形で貴志康一さんの楽曲の理解まで行き着く前に終わってしまうというのが、今回なかなか、めざすべきところは高く持っていたんですけども、ちょっと思っていたのと実態としては、やはり基礎的なところをもうちょっと積み上げていかないと、貴志康一さんの楽曲への理解というところ、ひいては区への愛着というところを持っていくにはちょっとハードルが高かったかなというところで、当然それは反省点としては思っておるんですけども。

**【寺川議長】**

例えば、これは誤解がないようにお話しするならば、例えばみんなが公平に、子どもたちが公平にみんな教えてもらう、全中学校とか小学校とかという見解もあると思うんです。誤解を恐れずに言えば。例えば、その中でかなり頑張った、クラブ自体がすごく充実し始めたときに、その段階で教えてもらえるようなコースがあるとか、そういうことは難しいですか。公平性の観点から難しいですか。つまり、そこに目指していったらプロに教えてもらえるとか、そういうのは難しいですか。モチベーションとかスキルをアップする仕掛けがあってもいいのかなという気がしたんですけど。

**【宮本政策企画担当課長】**

この事業としましては一応めざすところが違いましたことと、3年間の重点事業で延期をしたものなので、この事業としては……

**【寺川議長】**

一応終わっているわけですね。

【能勢委員】

そしたら、これもしかしたら作品を理解していても終わりは終わりだったのでしょうか。

【笠谷政策企画担当課長代理】

ややこしい話なんですけれども、経済戦略局というところが一旦3年間の期限付きの予算でして、それで継続するならば今度は区の予算を使って検討するという流れになってきましたので。

【寺川議長】

その子どもたちとアートとかプロフェッショナルな部分とどうつながっていくかというテーマは都島区でも重要なテーマではあったので、何かしらの方法が、きっかけがあればいいのかなと思います。

ほか委員さん、いかがでしょうか。全体通じてで結構です。

田淵委員。

【田淵委員】

地域にゆかりのある芸術文化に対する興味がより深まったと感じる生徒というのは、吹奏楽部の学生。吹奏楽部の子たちにアンケートを取ったんですか。吹奏楽部、合唱部対象のアンケートですか。

【笠谷政策企画担当課長代理】

吹奏楽部の生徒さんという形で。地域にゆかりのある芸術文化に対する興味がより深まったと感じる生徒さんということで、吹奏楽部、合唱部の生徒さんを対象に取らせていただいています。

【田淵委員】

吹奏楽部とか実際に演奏する子たちにプロから指導を受けるというのはすばらしいことだと思うんですけど、それ以外の吹奏楽部じゃなくて普通の子たちにもやっぱり地元でそういう貴志康一という音楽家がいるんだということを教えてあげて、地元でそんな人がいたんだというのを分かってくれば、ちょっとは意味があったなとは思っているんですけど、対象が狭いかなと。

【宮本政策企画担当課長】

芸術文化ということなので、対象がどうしても絞られてくる。

【山田副議長】

また来年度区民まつり等々あると思うので、その中で、せっかく四つの中学校いろいろあるから、いつも演奏されるのは一つのところぐらいしか見えていないので、できたら次からこういったところも出ていただいて発表してもらおう。せっかくここでやっているんだからね。途中までしかできていないかも分からないけれども、できるだけああいった場面で四つの中学校、合唱部もあるんですから、出ていただくような方法で要請かけていかれたらどうかなと思うので。

【田淵委員】

発表の場があったほうが貴志康一の存在をアピールできると思う。

【寺川議長】

少しこのあたりは今の状況がどうなっていくかということにもよりますけれども、やったことをどう継承するかというのを少し検証してもいいのかもしれないですね。予算の問題があるのは分かりましたけど。

あと、どこを重視するか、全体の中で意識していただくということですかね。ありがとうございます。

そのほか、区の魅力発信でケーブルテレビやYouTube等の情報発信、それから高架下アートプロジェクト、ビーチフェスティバル、ビーチバレー、吉本との包括連携協定とかありますが、このあたり皆さんいかがですか。

【西村委員】

YouTubeなんですけど、これは、ここの回数だけ見ているとほとんど変わらないんですけど、他区と比べるとどういう状況にあたりするのかだとか、そういうことというのは見られているんですか。この回数がどういう位置づけであって、これが25%増えて7,859になるということが、これで本当にどれぐらいの方に知ってもらえるということになっているのかなというふうにちょっと思ったのと、あと数が増えないということに対してコンテンツの部分に少し課題があるのかなとか、発信の部分にあるのかなという気がしたりするので、ほかの区との状況だとか、少しコンテンツを単純に、普通の区の情報を流しているだけのコンテンツで本当にいいのかとか、そういうところを少し考えたほうがいいのかという数字の変動なのかなと思ったんですけども。

【寺川議長】

ほかの区との比較はできますか。今難しいですか。

【笠谷政策企画担当課長代理】

そうですね、実際ちょっとそこまでは。ほかの区さんのほうも魅力発信の動画されていると思うんですけども、再生回数とかそこまで把握はしていないですね。

【寺川議長】

そこは検証したほうがいいテーマですよ。

【宮本政策企画担当課長】

魅力発信の動画としましては、感覚的にはうち多いほうかなと思っています。

【寺川議長】

情報発信は大分頑張ってはるイメージはありますが、どこまで機能しているかを検証してもいいかもしれないですね。

【宮本政策企画担当課長】

そうですね。また今年度につきましても動画のほうどんどん増やしていますので、毎月広報誌の宣伝でも動画を取り入れてみたり。

【寺川議長】

多分かなり頑張ってはるねんけど、コンテンツやと思う。例えばコンテンツのいい案とかありますか。

【西村委員】

これがどこに向けて。例えば、分からないですけどマダムはサウスポーさんとか、こういう方を活用したコンテンツとかってあまりお金がかからないのでできるのかなというイメージがあったりとかというふうなことも、もちろん検討してある程度されているのかなと思うんですけど、そのあたりをしたりとかいうことはあったりするんじゃないか。天王寺はミルクボーイが出て、多分あれだけでつながったりもする

ので、そういうきっかけ、見てもらうきっかけがないと多分この回数がぐんと増えるということがない。そういうきっかけになるようなものを何かされたらいいんじゃないかなと。

【寺川議長】

そうですね、次年度以降の目標で議論しましょうか。

【中尾政策企画担当課長代理】

政策広報担当の中尾と申します。

今お話出ました住みます芸人のマダムはサウスポーさんもそうなんですが、区民アンケートの結果では、やはりちょっと若年層のほうに広報誌があまり読まれていないということで、自治体の情報をどうやって取っているかというアンケートで若年層が少ないというところで、これはちょっとインターネット関係の動画配信も含めたアプローチというのも一つポイントなのかなというところで、宮本も申し上げたようにコンテンツを今どんどん増やしにかかっているところなんです。マダムはサウスポーさんも、地域の活性化ということで大阪市と吉本興業が包括協定を結びまして、どんどんと大阪市の取り組み、また地域の魅力というのを発信していこうという中で、この取り組みを都島区としてもいろいろな模索も含めながら取り組んでいるところでございます。

【寺川議長】

多分今のコロナ禍においても、特にこれから新しいコミュニケーションツールというか、やっぱり人がつながりにくい状況の中でどのように人がつながるのかというのがかなり重要なテーマになりますよね。多分次年度以降の活動の方針を議論する中で出てくると思うんですけど、多分今までとは違うコンテンツとか手法を検討すべき時期に今来ているような気がしますよね。ぜひ西村委員も次年度の話でいろいろ提案いただければと思います。せっかくやっていることがうまく発信できて共有できないもったいないですからね。いかがでしょうか。

早光委員、いかがですか。

【早光委員】

半年たって、半年前のことすっかり忘れてしまったんですけど、私2月に申しましたように、そういう魅力発信の発信するものが少ないなど。毎回、都島区は与謝蕪村しかないのかなと。いつも蕪村、蕪村とやっていますけど、その割に、蕪村通り商店街をいろいろテレビでやっていますけど、そう活性化、商店街が悪いということではなくて、そんなに魅力ある情報発信していますか。していないと思うんですけどね。与謝蕪村は結構なんですけど、それ以外ものをもうちょっと何か上げていったほうがいいんじゃないかなと。蕪村通り商店街もちょっと遠いですよね。交通の便。確かに駅はできていますけど。商店街の方、ここの委員の方でもあそこの商店街の会長をされている方いらっしゃいますよね。やはり商店街の代表の方としても、商店街の活性化というのは、駅ができて全然活性化していないと。ここでジェイコムとかも魅力発信していますが、その影響というのは実際把握しているのかなということはあると思いますよね。区として放送したりYouTubeで出たという、結果的にはどうだったのと。何か具体的な客観的な数字を表すものがあるのかどうか。また、さっきも言いましたように蕪村以外で何かもうちょっと観光資源というのか都島区の資源というのは再発見するものを我々も含めてないのかなということがちょっと気になっ

ていることですね。

以上です。

**【寺川議長】**

そうですね、蕪村含めていろんなものあるんですけどね。それがどうつながるかということですね。ありがとうございます。

今回、今の議題1は元年度の振り返りということでいろいろご意見をいただいています。恐らく今のお話でいくと、やはりやったことをもう少し検証すると。プチッと切るのではなくて、そこで得られたものを次に活かせるような仕組みを少し変えていく。社会的にも状況が変わってきていますので、それも踏まえて少し仕組みを考えていく必要があるんじゃないかと。検証のデータとか体制も一度見直す必要があるのかなということだったかなと思います。その点よろしく願いいたします。

では、続きまして（2）の都島区将来ビジョン2025についてありますので、事務局のほうからご説明お願いします。

**【宮本政策企画担当課長】**

都島区将来ビジョン2025骨子案をご説明いたします。資料2をご覧ください。

都島区役所では、平成25年に安心のまち、人がつながるまち、明日に誇れるまちを区のめざす将来像とする都島区将来ビジョンを策定し、平成30年、都島区将来ビジョン改訂版を策定しました。基本的な考え方は継続した上で、都島区将来ビジョン2025骨子案を取りまとめました。

都島区将来ビジョンは、区長が区内の基礎自治行政を総合的に推進していく上で、地域としての区のめざすべき将来像、その実現に向けた施策展開の方向性などを取りまとめ、区民の皆さんに明らかにするものです。

計画期間は、2ページの図にございますように、中長期的な取り組みを進めるため、おおむね5年とし、2021年から2025年度末を見据えた上での2025年度末までの施策展開の方向性などをお示ししております。こちらを基に毎年運営方針あるいは予算を編成してまいります。

次の3ページから9ページは都島区の概要としまして、位置や地形、歴史、人口の推移などの概要をまとめ、統計資料などをご用意しております。

10ページでは、めざすべき将来像と取組の方向性として、安心のまち、人がつながるまち、明日に誇れるまちを区政の基本理念とし、11ページ、12ページでは、ビジョンの柱となる安全・安心のまちづくり、人と人がつながり、助け合うまちづくり、明日に誇れるまちづくり、区役所力の強化、それぞれの中長期的な取り組みの方向性をお示ししています。

13ページ以降につきましては、各具体的取組につきまして、現状と課題、めざす状態、取組の方向性、成果指標をお示ししています。本日示しておりますビジョン2025骨子案は、あくまで骨子案につきまして、本日の部会や他の部会でいただきましたご意見を踏まえて素案を作成します。素案につきましては10月に開催予定の区政会議全体会にお示しし、ご意見を反映し、案を作成しました後、より広く区民の皆様からもご意見を募集した上で、案を取った都島区将来ビジョン2025としたいと考えております。

本日のまちづくり・魅力部会では、19ページ、3、明日に誇れるまちづくり、3-1、魅力あるまちづくり

についてご意見をいただきたいと思います。

骨子案の19ページをご覧ください。3-1魅力あるまちづくりでございます。現状・課題。三方を川に囲まれた都島区の恵まれた自然環境、立地条件、歴史文化などの資源が、地域の魅力向上や活性化に十分に生かしきれていない。また、区外、区内への情報発信が不足している。めざす状態。毛馬桜之宮公園を中心とした水辺、まちの賑わいづくりの活動が民間主体により継続的に実施されている状態。区民が区の歴史文化資源等を認識し、区に愛着を持っている状態。取組の方向性。関係機関と連携・協働したイベントや情報発信による機運づくりにより、水辺のまちづくり、地域の活性化を進める。また、区の歴史文化資源の発信を行うとともに、区民が関心を持てる事業を展開する。アウトカム指標は、都島区運営方針から引き継いでいます。区に愛着を感じる区民の割合。現状値は令和元年度区民アンケートで88%と高い数値を得ましたので、目標値としましては令和5年度までに90%と設定しました。

説明は以上です。

**【寺川議長】**

ありがとうございます。特にこれから2025年に向けてのビジョンをつくるということなので、この会議のとても重要なテーマになっているかと思います。今の説明を受けて皆さんのご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**【早光委員】**

3-1の三方を川に囲まれているということで、水辺を中心としたプランだと思うんですけども、実際、銀橋から川べりをずっと歩いていて、拘置所の横から毛馬の洗堰まで行くとして、美しくないですよ、歩いていて。ランニングされている、ジョギングされている方はいらっしゃいますけど、観光のコースとして歩くとあまり美しくないです。ずっと通して歩いたら健康増進のための道のような感じがして、もう少し楽しい水辺、ほとはあってもいいかなとは思いますが、いかがでしょうか。資源として提案されるのであれば、もう少し楽しかったらいいなと。

**【寺川議長】**

三方を川に囲まれたというのがこの区の特徴であるとすれば、いわゆるウォーターフロントとか水辺の空間をどのように魅力的にするのかというのは重要なテーマだと思いますが、そのあたり委員の皆さんいかがですか。

**【能勢委員】**

私は中野町なので、よく自分の健康のためにも大川沿いをずっと歩くんですけども、やはり走る人、散歩する人、自転車の人ってごちゃごちゃなんですね。だから、みんながそれぞれにうまいこと人をよけながら走りはしていますけど、その辺もう少しうまくそれぞれのジャンルに、自転車ならここを通過してくださいという、せめてそれぐらい。歩道なのか、車道はないですけども、下の道なのかという。ばらばらに自転車も走っていますし、危ないといえば危ないです。お子さん連れでもコロナの時期は歩いている方も多く見られましたし、それと、ずっと歩いていて砂の砂利を採取しているところが出てきたりだとか、途中でそういう桜並木も途切れ歩くところも変なところをくぐらなきゃいけないとか、そういうところとか、あと運河のほうに行くと、そっちは全然整備されていないとか、高架下なんかのところは

あまりきれいではないですし、そういう統一性がないのが残念だなと。

【寺川議長】

今面白いテーマ出てきましたけど、いかがですか。この区は本当に川に囲まれているというのが特徴ですもんね。そこの景観とか魅力ってどうなのかというテーマだと思います。いかがですか。状況としてはどうですか。やっぱり整備されていないイメージですか。魅力があまり……

【能勢委員】

中途半端。

【寺川議長】

それはつながっていないという意味。ずっとつながっていないのか、整備されているところとしていないところの差が激しいということ。

【能勢委員】

全部です。歩いていたりすると本当に何か、とてもきれいですみ分けもできそうなところと、細くてごちゃごちゃとしているところと、砂利のところなんかは全く。あとやっぱりJRとか橋の下とかになるとどうしてもちょっと汚いままだったりとかするので。ふだんなら、今までならそんなにきつと意識していなかったと思うんですけど、自分がこの委員になって気をつけて歩くと、やっぱり気になり出したら気になるかということを感じました。

【寺川議長】

都島区で三つの川の景観とか整備状況みたいなものをまとめたり検証したりしたことあるんですか。整備計画があるとか、それか景観がどうつながっているとか、そういうのは今まであまりなんですか。

【谷口副区長】

どちらかという建設局というところが公園を所管する中で、一つ一つの修繕といいますか、そういうところをやっていってる状況で、先生おっしゃるような全体、特に寝屋川とかそういう全体を見た計画というのが十分ではないなという認識ではあります。

【寺川議長】

こんな状況だということ調べたこともないかもしれない。

【宮本政策企画担当課長】

1年に一度とか管理の上で台風や災害で木が折れているから整備をしないといけないとか、そういうふうな建設局からの報告を受けて、どちらかという管理ですね。

【寺川議長】

管理上の問題として国とか市とか、河川ですから管理部局が違いますので、そこの報告を受けるという。

【宮本政策企画担当課長】

そうですね、魅力の増進とかいうところまではいかなくて、とにかく安全に管理をするというところで。

【寺川議長】

そこ、もしかしたらもったいないかもしれないですね。もう少し積極的に区として整備というより、むしろ使っていく仕組みとか、みんなできれいにする方向性とか。管理も、西村さんよくご存じやと思いま

すが、ウォーターフロントのいろんなプロジェクトもあるかと思うんですが、どうですか。

**【西村委員】**

今お話出たのはどちらかというと公的なところが整備をしてくださいというお話があったと思うんですけど、めざす状態の中には民間主体で魅力をつくっていききたいなというお話なんかもあったのかなと。書いてあるんですけど。そこに向けて、多分今よくあるのは公民連携という形で、民にやってもらうために公がどういうふうな支援をやったり仕組みをつくったりするのかということが多分重要なところで、今お話にあった川沿いの空間だとかビーチのこういったところだとかをどういうふうに民間に入ってきてもらって使ってもらえるのかみたいなのを何らかつくらないと、このめざす状態に行かないだろうなというふうなことは感じたんですけども、その辺、民間がどういうふうに入れば入ってくるのかとかということやヒアリングするかサウンディングして行って計画を区としてつくっていくとかということが、今の両方の公の整備の話も民間に入ってきてもらう話もあると進んでいくんじゃないかなというふうに思います。

**【寺川議長】**

区が単独でやる限界もあるじゃないですか。だから、そういう意味でいうと、今大阪市の中でも、中之島もそうですし、大正もそうですし、港町もそうですけど、いろんなところで河川の活用というのが割と広がってきています。実践もあるので、せっかくある川辺をどう使うかというのはもう一步踏み込んで、いろいろ状況をみんなで把握して、できそうなことをやってみる。区が全部やる必要はないわけで。民間を巻き込む方法はあるのかもしれないですね。

**【笠谷政策企画担当課長代理】**

今お話あった公民連携というか、今大規模公園、大阪城でしたらPMOといいまして民間事業者が維持管理もして、さらに魅力を高めて、投資をして魅力を高めて集客するという動きがありまして、今実際、毛馬桜之宮公園を含めて鞆公園なり大規模な公園で、事業者からどういった提案が望めるかというサウンディングというのが去年かおとしぐらいに実際にされていまして、これを進めている大阪市の公園部局のほうがかような民間事業者さんのほうにお話を聞くという場を設けているんですけども、その中で、今実際に毛馬桜之宮公園でも三つの団体さんから提案が出たりしておりますので、これが実際毛馬桜之宮公園で同じように大阪城みたいな形で民間業者がこれから進めていくかということはまだ全然これからなってくるんですけども、一定そういう動きというものも先行してサウンディングということも進められていますので、もしかしたら今後この毛馬桜之宮公園、大規模公園の中でも民間事業者主導で進む可能性もまだ今後あるのかなとは思っています。

**【寺川議長】**

その場合、この区政会議といえますか今回つくろうとしているビジョンなんかには一定、みんなでこういうふうにしたよねという方向性を出すことで民間も入りやすかったりとか、そういう業態に来てもらうとか、その可能性は高まるような気がしますけど。何か知らない間にできたというよりは、思いを持って、なるべくそういう人たちに来てもらうというのもこのビジョンの一つの方向性かなと思うんですけど。

**【山田副議長】**

あまりにもそういった河川はどこそこの管理とか、遠慮し過ぎているところがある。やはり都島区は区  
の言うべきことははっきりと。相手が国であろうとどこであろうと、やっぱり言うべきことははっきりと  
言っていけないと、言われたほうは何も分かっていないと思う。私らから、今言うてはるように河川敷を  
ずっと行って歩いてみようかなという気も、今のところ全くないし、そのPRも一つの方法だしね。だから、  
公園はどこそこの管理であるとか、河川はどこそこの管理。あまりにも遠慮し過ぎている。遠慮すること  
によって上辺だけでずっとやっていて進んでいかない。もっと言うべきははっきり言っていかなあかん。そ  
れはやっぱり区長の仕事であり皆さんの仕事。それも我々の仕事もあるけれども、我々が幾ら頑張っても、  
やっぱり言うべきことは言っていだかないとね。そういった姿勢もしっかり持っていだかないと、こ  
ういったものは難しいところもあるんじゃないかなと私は思うんですけどね。

**【寺川議長】**

そのために区長を後押しする区民の意見とか思いみたいなものを、区長、これをお願いしますって  
言っていかなあかん。

**【山田副議長】**

それはどこでするかといったら、いろんな意見を聞こうと思ったらやっぱり区民まつりのときにそうい  
ったものを、チラシを配るだけでなく、アンケートも取ってもらおうと思えば、来てもらってアンケート  
を書いてもらうんじゃなく、こういったものに、板に書いて、来てはる人に持って行って、じゃ、こうこ  
うというやり方も一つの方法。そうすればもっといろんな意見が出てくるしね。テント一つ張って、来て  
ください、アンケートお願いねというのでは、これはなかなか人というのは来ない。やっぱりこういうも  
のを持って、都島区についてはこうこうこうなんです、どう思いますかというのを、行って、そのときに  
何か一つのお土産でもあるのであれば、ポケットに入れといて出してあげたらいいんですよ。来てもらっ  
てあげますよというんじゃないしに。そういう方法も一つのやり方だと思うのでね。そしたらもっと今の河  
川のところについても、チラシのところ写真もつけて、こんなのですよとか、そういったやり方も一つ  
の。費用はかかるかも分からないけれども、その辺は今の世の中、やり方はいろいろあると思うんです。  
YouTube見てくださいね、テレビ見てくださいねだけでは、私は難しいと思います。高齢者はなかなか見  
ないじゃないですか。若者は若者で、そんなところは見る時間もないよと。今の時代ね。絵に描いた餅に  
ならないような形で私はいきたいなと。じゃ、皆さんどうするんですかというのは我々の仕事。区民の仕  
事でもあり、皆さんの仕事でもある。

**【寺川議長】**

あと、3-1で、ほかありませんか。

あとは魅力発信という意味でいうと、区民がどう思うかということと、それからターゲットというか、  
誰に対して、どういう人たちに来てもらうとか、そういういろんなターゲット設定によってもやり方も  
変わってくるかと思うんですが、そのあたりは皆さんはいかがですか。今ちょうどこの時期なので、イン  
バウンドとか観光というのはなかなか動きにくい状況にありますけど、やっぱり区民が中心になって魅力  
的な憩う場をつくっていくという方向性で示していくのか、やはりもう少しいろんな人が寄ってくれるよ  
うな区をめざすのか、それはバランスなので、どちらも考えていくべきなのか。それによっても大分方向

性とかは変わってくると思うんですが、そのあたりはいかがですかね。少しご意見いただけますか。まずは区民が憩えるようなイメージですかね。同時に、人が寄れる魅力を発信して、来てもらって出会える場所という。多分このテーマはもう少し踏み込んで皆さんで議論したほうが、イメージビジョン出しにとっては大事なのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

田淵委員、いかがですか。

【田淵委員】

区に愛着を感じる区民の割合の現状値は88%で結構現状でも高いので、この分野に関しては今のままでも結構うまくいっているのかなと思うので、これまでどおりという、今現時点でも動画配信とかされているので、そういったところを見ていったらいいかな。

【寺川議長】

やっぱりどうですか、区民の愛着は今かなり高いほうだと思いますよね。これから魅力あるまちづくりをするときにターゲットというか、どういう人たちとこの区を盛り上げていくのかというあたりもあるかと思えますけど。そのあたりいかがですかね。早光委員、いかがですか。

【早光委員】

区民でどう盛り上げていくか。先ほど言われました現状値、区に愛着を感じる区民の割合ということで、都島区は何で愛されるかという、やはり便利であると。以前からテーマである安心安全をやっぱり重点的に推していくと。あと、私はいつも言うんですけど、美しくないんですよ、この区は。きれいじゃないというんですかね。やっぱりそこがあるともっと愛着度が上がっていく。きれいであるということは安全なんですよ。そういうことを私はもうちょっと重きを置いてやっていけばいいかなと思いますね。だから先ほどの河川整備でも予算をいろいろ、河川法であるとか何とか法であるとか条例とか法令とかいろいろあると思うんですけども、整備にお金は確かにかかると思うんですけど、それ以外に本当に魅力がある水辺ということ、もうちょっとお金がかからずに。予算措置があるので、予算化されるといったら来年になったり再来年になったりしていくことも大事なんですけれども、もう少し手前の、ここに出してあるんだから、もう少し水辺周りを皆さん丁寧にしましょうというふうなことをやっていきたいなと思います。

【寺川議長】

なるほど。そういう区民活動みたいなものはかなり重要な柱としてはあるんじゃないかと。一方で、マーケティングサウンディングをされているわけですから、民間のそういう機能みたいなものが入ってくるんでしょうから、どうつながっていくかというのもありますね。

【早光委員】

そうですね。

【寺川議長】

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

実際、でも、お金をかけずに持続的にやるというのはどういうことかということですね。

【松井防災地域活性担当課長】

防災担当の松井と申します。

先ほど、きれいが安全を保つというお話を頂戴しまして、川辺の一つの取り組みということで、都島区で長いことやっている部分につきますと、大川のところのちょうどリバーサイドホテルの下辺りで大川かたづけ隊ということで、毎月第3土曜日にボランティア清掃活動をして、やっぱり皆さんに広く集える場にしていくというふうなことで、毎月、今はちょっとコロナの関係で中止しているんですけど、いつも子どもたち、少年野球のチームであったりとかいろんな方が集ってごみ拾いをして、みんながいろいろ集えるにしていくというような取り組みもやっています。それを点という形で捉えて、今度やっぱりそれを区内に広げていくというふうなことも必要じゃないかということで、これは年2回なんですけど都島区クリーン作戦ということで、5月と11月、これも残念ながら今年は中止になっているんですけど、こちらのほうも非常に多くの方がご参加いただいて、区内を一斉に清掃していく。それをやっていくことによって、やっぱりおっしゃっていただいているように、汚なかったらやっぱり犯罪も増えていくので、きれいにしていくことで人が住みやすい、または都島区にも来ていただけるようになっていくというふうなことで、小さいことかも分かりませんが、そういうことは継続してやらせていただいているというのは一つ紹介させていただきました。

**【寺川議長】**

ありがとうございます。多分、各区でやってはるんですよ。クリーン作戦もよくやってはりますもんね。どうしていくかやな、実際。

**【田淵委員】**

クリーン作戦ってどのあたりでやっているんですか。

**【松井防災地域活性担当課長】**

クリーン作戦は、一応基本はその日に門前清掃というのを基本にしているんですけど、ただ、お独りごとかというときには京橋公園であったり、先ほど申し上げたリバーサイドホテルの下の辺りであったりとか、淀川の河川敷と、一応3か所設けていますので、もしよかったら一回ちょっとご参加いただいたら雰囲気も味わっていただけたと思います。

**【大畑区長】**

骨子案の15ページのところにちょこっとだけ出ていますので。これは桜之宮公園のクリーン作戦ですね。

**【寺川議長】**

やっていることはやっているんですよ。多分いろんな区でもいろんな市でも、行政、自治体でもお話になるのは、やってはるんですよ。いろんなメニューとしてはかなりやってはるし、実績もあるかと思うんですけど、じゃ、何があればもう少しそれが認知されたり具体的な評価としてつながっていくのかというあたりは、多分このビジョン、この活動も全部そうだと思うんですが、見せる手法ということ。伝える方法も含めて何かしら変えないと、多分同じ状況が出てくるのかなという気はします。先ほど西村委員言われたコンテンツというか発信の仕方が多分今後すごく重要に。発信というかコンテンツのシステムみたいなものもちょっと一緒に考えてもいい時期かなと思います。

**【田淵委員】**

クリーン作戦って年2回。

【松井防災地域活性担当課長】

クリーン作戦、年2回させていただいています。毎月はリバーサイドホテルの下で定例的に土曜日やっておりますので。

【田淵委員】

こういうのは習慣によるところが大きいかなと思うので、毎月とかやったほうがいいかなと思ったんですが、毎月やっているんですね。

【寺川議長】

じゃ、3-2は特に人材育成についてご意見ありますか。

【宮本政策企画担当課長】

本日は魅力部会ですので、3-1だけで。

【寺川議長】

そうですか。

そのほか、これ2025年のビジョンになりますので、5年間ということになります。少しだけ、あとその他という議題が残っているんですけど、あと5分ぐらいありますので、少し今の議題で。

やはり今の新型コロナ禍の中でこの5年というのをどのように見ていくのかということは、かなり重要なテーマなのかなというふうに僕は個人的には思っています。つまりビジョンというものが2025年に向けてやっていこうという方向性で出すわけですから、ウィズコロナ、アフターコロナのこの区の在り方みたいなものをどうしていくのか。やりたいと思ってもできないこともあるでしょうし、今だからこそできることがあるかと思うんですよね。そのあたり委員の皆さんからご意見ちょっといただけないかなと思うんですが、いかがですか。多分やりましようと言ってもできないこと多いと思うんですよね。ビジョンを2025年に向けて出したとしても。そのあたりで、マイナスで考えるより、むしろどうしていくかというプラス面も含めて、皆さんちょっとご意見いただけないかなと思うんです。いかがですか。口火はどなたから。いつも申し訳ないですけど西村委員さん。

【西村委員】

やはり人とつながるとかそういうことを重要視するような、人とのつながりだとかということが重要視されるプランになっているんですよね。その中でウィズコロナというのはかなり難しい在り方を問われると思うんです。私もまだなかなかそういうのをどうするんだということを、今いろいろ仕事なんかでも検討したりするんですけど、結論は正直出ていないので。ただ、何らかのつながりについても、密じゃないけれども、距離があるけどもつながっていくみたいな、そういう今電子媒体でのつながりなんかも含めて、何かいろんな方法、手段とか仕組みみたいなもので多分解決できるものもあるので、単純に人と会わないとできないというふうなものだけじゃないように少ししつらえるというのは多分あるんじゃないかなというふうにちょっと思っています。

【寺川議長】

ほかの部会にも関連してくることかもしれませんね。

田淵委員、いかがですか。ウィズコロナ、アフターコロナ。難しいですけどね。

【田淵委員】

そうですね。ワクチンができて収束している可能性もあるし、全然変わらない可能性もあるし、どっちで考えた方がいいのかというのは。

【寺川議長】

でも今は現在進行形で、これをどう受け止めていくかということのと、やっぱり幾つかのシミュレーションは要るのかもしれないです。僕も難しいテーマなので、こんなんよく振ってるなと思うんですけど。

能勢委員、何かありますか。

【能勢委員】

やはり今の状況だったらZoomとリモートでつながるのを使っていくしかないと思うんですけども、私がちょっと関わっているグループで、結構平均年齢高いんです。私で若いほうなので高いんですけども、やはり新しいことにチャレンジしたいと思う後期高齢者の方もいらっしゃるんで、そういう場を地域で。やっぱり距離があるので、じゃ、そこへ行って一緒にやりましょうというわけにもいかないし、もし例えば地元でそういうZoomやりませんかみたいなことをやれる場所があったら、のぞいてみたいなと思われのお年寄りも結構いらっしゃるんじゃないかなと思うんですよね。そういうことだとか、さっきの貴志康一さんの理解いただかなかった中学校の吹奏楽部とか合唱部のリモートで発信するとか。

【寺川議長】

演奏もできるかもしれないですね。

【能勢委員】

演奏できるかもしれないし、それをPRして区民の皆さんやご家族、それこそ親戚、発信する以上世界中に見れるわけですし、例えば自分の遠くにいるおじいちゃん、おばあちゃんに見てもらえるという場にもなりますし、そういうこともやっぱりこれからは考えていかなきゃいけないのかなと。

【寺川議長】

今の重要ですよ。後期高齢者の方だからZoomとかインターネットは無理だと思わずに、今このチャンスをうまく活用してそういう人たちにどうやってコミュニケーションのツールを扱っていく手法をつなげていくかというのはある可能性ありますね。

【能勢委員】

やっぱりスマホを持っていらっしゃる方は多いと思うので。

【寺川議長】

スマホ率は高くなってますよね。5年たてば100%近く持つ。

【能勢委員】

ガラケーがほとんどなくなることを考えれば、そういう方たちに一歩進んでZoomとかでつながりましょうということはもっと積極的に提案してもいいのかなと思います。

【寺川議長】

なるほど。これは今回のまちづくり・魅力部会でいう情報発信にもつながる可能性ありますね。テーマ

としては、そのあたり、山田委員、いかがですか。

**【山田副議長】**

今のところ広報誌というのは都島区が一番。冊子が毎月出ているんですけど、中身を見ていると、あまりにも字が小さくてなかなか見れない。私ら高齢者はなかなか見づらい。もう少しあの辺をみると、もし1冊で駄目であれば、チラシの何かでもいいから、2枚でも3枚でもそういったものをつくって、地域を使えばいいですよ。もし配布するのであれば、チラシで幾らでも持ってきはるじゃないですか。各連合へ。そういったものをもう少しカラーですとか見やすいような形でね。大変だと思いますよ。でも、せっかく魅力あるものを、我々も頑張らなあかんし皆さんも頑張ってもらうには、じゃ、どうしたらいいか。チラシもなかなか有効性があると思うんです。YouTube見てくださいと言ったって、今言ったようになってなかなか高齢者も、これからスマホでという話になってくる。スマホもまだまだ、2026年まではガラケーも使える時代やからね。それまでに、じゃ、どういう手段でしていくかというのは、やはりチラシは僕すごく有効性があると思うんですけどね。

**【寺川議長】**

そういう部分必要ですよ。アクセスできない人たちに対する対応も当然一緒にやっていくと。ただ、この時代、状況の中でのIoTとかICTとかそういう技術も一緒につなぎながら、今言われたチラシの工夫と媒体ですね、それとそういうネットの情報とうまく組み合わせていく時代かも分からないですね。それは情報発信とか魅力発信の方法としても、この部会としてももう一步踏み込んで検証できればと思いますので、またこの議論をテーマとしていただければと思います。

ほかよろしいでしょうか。ありがとうございます。

じゃ、その他の議題ということで用意していただいていますので、その報告いただけますでしょうか。

**【宮本政策企画担当課長】**

その他につきまして、淀川連絡線跡地の区民広場について、事務局から説明いたします。資料3をご覧ください。

令和元年2月に実施しました区政会議まちづくり・魅力部会でご報告させていただきましたように、都島区南通り付近にある淀川連絡線跡地では、令和元年12月に策定しました淀川連絡線跡地活用計画に沿って整備や売却の準備を進めているところです。保育園に隣接する跡地先端の約1,300平方メートルにつきましては、令和4年度の開設を目指して、今年度中に区民広場として設計を行います。

土地の概要ですが、面積約1,300平方メートル、接道状況は三方路。幅員ですが、マンション側は約8メートル、北側約4.5メートル、幹線道路約28メートルから30メートルです。

参考に、平成26年度に実施しました区民意見募集の結果、緑地・公園、スポーツ広場に関しまして、防災トイレになるベンチ、火おこしができるベンチ、時の先端に行く他の区のモデルとなるような施設、子どもから老人まで気楽に憩える場所、ドラえもんに出てくる昔の空き地のような癒しのスペースを希望します。縄跳びやボール遊びのできる土地のグラウンド、地域には子どもたちの自由に遊ぶことができる空き地がないなど、ご意見いただきました。そのご意見を踏まえまして、区民広場に求める機能としましては、災害時の一時避難場所、地域コミュニティの醸成、子どものスポーツ・遊び場という機能を持たせる

ように今考えております。

ご意見のほうお願いいたします。

【寺川議長】

ありがとうございます。

これも具体的に動き始めていることだと思うんですが、もう皆さんご存じですか。これについていかがですか。

【早光委員】

これ地域コミュニティの醸成ってどういう意味ですか。何をどうするんですか、具体的には。皆さんのパブコメの意見をまとめて醸成ということだと思うんですけども、ちなみにどういった。

【宮本政策企画担当課長】

できるだけこの広場を多目的にいろんなものに、地域の方たちにも使っていただいてということをして…

【早光委員】

もう少し分かりやすい言葉のほうがいいんじゃないですか。具体的に。幅広い年齢層に使用できるようなというふうなほうがいいんじゃないですか。

【寺川議長】

これは皆さん大体ご存じですね。今どういう状況で、どうしたほうがいいのかあります。ご意見いただければ。

【早光委員】

今、保育園はもう稼働しているんですよ。

【笠谷政策企画担当課長代理】

この4月から。

【早光委員】

駐車場も実際に開業していますよね。

【笠谷政策企画担当課長代理】

この5月から駐車場として運営されている状況です。

【山田副議長】

ちなみに、この保育園の名前は何かという名前ですか。今もう4月から動いているんですよ。保育園の名称は何かという名称になっているんですか。内代なので、あまりこっちへ来ることないので。自分ところの地域には二つあるのは分かるんですけども。

【谷口副区長】

ニチイキッズ都島南通り保育園。

【山田副議長】

ニチイキッズ都島南通り保育園。長ったらしい名前やね。誰がつけたのか分からないですけどね。やっぱり幼稚園というのは誰でもパッと見て、なるほどなというような名称にしないと、片仮名入れたり漢字

入れたり、何でも片仮名使えばええというような問題じゃないと思う。今、何でも片仮名でしょう。これじゃないですが、チラシでも何でも。平仮名にするとかそういったものも。長ったらしい名前なんて、どれだけ皆これ覚えはる。

**【西村委員】**

求める機能、これ書いてあることは素晴らしいことやし、みんながそうだなと思うんですけど、これをどうやって造っていくかだと思えます。今年設計をされる中で、多分こういうものを造って市民の方、区民の方に使ってもらおうと思うと、そのプロセスプランニングが一番重要で、使う方が計画するときからどうやって関わってもらおうかというのが大事な。それがないと、多分将来的に、しっかりファンがないと使ってもらえないので、そこをするようなプロセスを経てもらいたいなということを思います。今どういうふうに設計、工事を進めていこうとされているのかなということを聞ければなと思います。

**【宮本政策企画担当課長】**

災害時に一時避難場所とかに使えらるということもありますので、できるだけ広場部分は広く造りたいなというようなことは考えています。あとは、愛着を持っていただけるような仕組みができればなとは思っています。

**【西村委員】**

例えば自分たちで施工を一緒に頑張っ、例えば芝を張るのを地元の人たちと一緒にやるとか、使ってもらうための仕掛け、自分たちが愛する仕掛けというのを、できれば設計から、できれば工事するときからやらないと、できませんでした、はい、使ってください、これ一番やりやすいんですけど、多分あまり、皆さん文句を言うので、そうではなくて、自分たちが計画したり、自分たちが造るのも手伝ったとなるとそうならないのかなと思いますので、そういうふうに進めてもらえたらなと思います。

**【寺川議長】**

今まだその検討の余地は、どのレベルかは別にして、あるんですか。

**【宮本政策企画担当課長】**

ここでご意見いただきまして、また地元地域にもご意見いただきまして、最終的には設計決めていきますが。

**【寺川議長】**

今、プロセスプランニングとおっしゃいました。プロセスデザインとかいったり参加のデザインというんですけど、それによって愛着が湧いたりとか、その後の自主管理というか、それがうまく機能するとはよく言われていますよね。それをするかしないかで全然変わってきますので。逆にいうと、行政が造っちゃうと、行政に対して、これは悪い、あれは悪い、ああせい、こうせいとなりがちなので、そこを持続的に自主的にどう運営していくかという仕掛けがあるというのは、一般的には、特に広場ですから、公園ではない状況——公園じゃないんですよ。

**【宮本政策企画担当課長】**

都市公園ではございません。

**【寺川議長】**

ないんですよね。だから、広場としては割と柔軟に使えるはずなので、そこに市民の参加する余地みたいなものがあつたらいいのになと思うんですけど。セルフビルドとかできたらいいですよね。横文字言いました。自分たちで造るという話です。いかがでしょうか。

これ周りはどういう状況なんですか。マンションがあつて、戸建てがあつて、真ん中にこの敷地ありますけど、どんな関係なんですかね。

**【能勢委員】**

ただ、これでいくと広場で、子どもたちにも遊んでもらってというように取れるんですけども、周りから苦情とかは出ないんですかね。最近どうも寛容性が。学校で子どもたちの歓声がうるさい、声がうるさいというような時代で、あの辺、新しいマンションの部分と古くからの住宅地のちょうど境、間に建つ。

**【寺川議長】**

見るとそんな感じですね。

**【能勢委員】**

間にある広場になるので、古くからいる方たちにとっては、急に子どもの遊ぶ声がしてうるさいとかいうことには。ボールが飛んできて危ないとか。

**【宮本政策企画担当課長】**

生活圏ですので、音の苦情というのは出ると考えられますし、ボールにつきましても、先ほど言いましたように周りが車道で囲まれていますので、やっぱり危険は否めない。

**【能勢委員】**

ですね。

**【宮本政策企画担当課長】**

フェンスもある程度は高さを考えていますけれども、横幅とかを考えると、すごく高いものを造るとまた閉鎖的になるのかなというようなデメリットもあるかなというのは検討しているんですが。

**【能勢委員】**

ボール遊びでも、例えばサッカーボールを受けるのとキャッチボールをするのとでは全く違いますし、どういうイメージなのかな。子どもたちにどこまでオーケーが。

**【谷口副区長】**

西村委員がおっしゃったプロセスに関わるんですけども、最初はまず平成26年に意見募集といって、これはホームページにも載せているので非常にたくさんのご意見いただきました。その後も、区民広場にかかわらず跡地全体について区民説明会などもこの区役所では開催してきました、いろんなご意見をいただいて、ボール遊びをご希望される保護者の方もおられれば、能勢委員おっしゃるように、そういうのが周辺への影響ですね、そういうことについての懸念される声もございました。そういう中で、最大公約数的に意見を取りまとめてきて、それを、今は技術的な観点、一方で予算的な点、それからもう一つは技術的な面もありながら設計を進めていくんですけど、宮本課長申し上げましたように地域のほうにも当然ご意見聞いてまいりますので、その中で、一つはそういう周辺環境との調和の問題、もう一つは維持管理ですね。それはみんな愛されるように使っていただくという観点で何らかに関わっていただくような形で

進めていきたいなというふうに思っております。ですので、特に周辺との環境については非常に気をつかうところであるかなというふうに認識しています。

【寺川議長】

そういう問題が起きそうだからこそ、つながる機会が生まれるかもしれない。そういうことですね。

【谷口副区長】

そうですね。本当にそういうのを許す、もっと寛容であるべきだというご意見もあれば、いや、やっぱり実際隣に住んでいる人間にとってみればというご意見もありますし。

【寺川議長】

そうですね。難しいところですけど、やっぱり初めの参加の仕組みが重要かもしれないですね。意見を聞きました、それでいきなりできちゃうと、多分一個一個に対して反発が。Aさんの意見、Bさんの意見でみんなばらばらになってくると、結局何もできなくなるというのが今までよくあるパターンなので。ぜひそのあたりは、いろいろ意見も聞いていただいていると思うので、あとは参加のプロセスみたいなものが少しあるだけでも大分変わるかなと思います。

ほかいかがですか。

【早光委員】

いろいろあると思うんですよ。施設ができると、箱物であろうが何かであろうが、施設ができると利用される方と、そこに住まわれている方といろいろあるんですけども、取りあえず魅力ある広場にしてもらったらいいんじゃないかなと思います。近くに住んでいる人間としましては。

【寺川議長】

今どちらでしたっけ。

【早光委員】

近くです。ですから、古くから住んでいる人間からすると、新しいマンションができると、できる計画のときから古くから住まれている人は、ちょっといろんなことに神経が。だから、保育園ができることによって利便性が生まれる、例えば夫婦共働きの方が増えると所得が増えるということもありますけど、子どもが増えると、こっち側の子どもと縁のない方にとってはうるさいと。そのずっと共存というか共栄というか、どこか我慢というか、ちょっと大人の心を持ってやっていけば魅力ある都島区になると僕は思いますよ。

【寺川議長】

都島の今後を占うような。すごく面白い、僕は個人的に面白い場所やなど。

【田淵委員】

個人的には子どもたちの遊び場にしてほしいなと思いますね。僕の子どもの頃、正直ここの連絡通路に勝手に入って遊んでいたりしましたから。

【寺川議長】

なるほどね。ここはぜひいろんな、お互いの今の思いのずれみたいなものも共有できる活動とかイベントとかを一緒につくってみるとかね。そういうことをすることで何かお互いさまのイベントができたなら。

まず小さいことからでいいと思うんですけどね。あまりつくり込むと、管理運営どうするねんとかいろいろ出てくるんですけど、ちょっとずつ関係を寄せ集めていくような、そういう場所になればいいのかなと思います。

皆さんいかがでしょうか。能勢委員なんかいかがですか、このあたり。頭の中にいろんな人が出てくるんじゃないですか。

**【能勢委員】**

いえ、そんなことはないですけど。100%全ての人が満足するものは難しくても、ちょっとずつみんなが押さえるべきところは押さえて、本当にいいモデルケースになればいいなと、今のお話を聞いていて。なり得る可能性がある土地だなと思ったので。小さいことから参加して、あの周辺の全てとはいかないでも、いろんところからピックアップして、いろんな世代の方たちが自分たちの公園として盛り上げていけるような、早い段階からそういうふうに参加できる場があれば、今後何十年先かでも変わっていくのかなと思う。

**【寺川議長】**

山田委員なんか自治会ずっとされていますけど、そのあたりの新しいマンションの方々との関係も難しいと思うんですけど。

**【山田副議長】**

そうですね。以前もちょっと話させていただいたと思うんですけど、やはり子どもというのはこれから都島の宝なんです。これは都島区だけでなくね。今の大人がどれだけ、自分らの子どものときを振り返れば、やっぱり子どもは大事やね。遊び場所も今まではあったわけですよ。我々の子どもの頃はね。今の子どもさんは全然ないじゃないですか。学校の校庭使うのはいろいろ規制をかけられたり。これを見ていると、これだけの広場のところで子どもさんが、例えば月曜からずっと1週間どういった遊びをするのとなったときに、やっぱり土曜、日曜日って多くなるね。このときにはこういったゲーム駄目よ、こういった駄目よと。なかなか難しいところが出てくると思うんですね。ということは、やっぱりボールだけ駄目よとか、火遊びは駄目よとか規制がかかってくるときに、区民の広場は何に使うのと。だんだん規制もかかってくる。難しいところもあるけどね。その辺をどのように今言うてはったようにするか。我々かて、地域にはそういった大きい公園もあるんですけども、あまり火なんか今どこも使えない状態。公園になってるから駄目ですよ。でも、広場だったら、さっきも言っってはったように公園局に何も遠慮することないんだから。都島区の広場なんだからね。都島区独自で動けばいいところなんでね。それこそここに来て火をおこして、ミニキャンプ。釣りも、鶴見区まで行かなくても、ここでね。あとは大人がついてちゃんと処理をすればいいことであってね。広場というのは使い勝手がいいと思うので。いいからといって、逆に、じゃ、何でもいいかなって、そうでもない。やっぱり地域の人と。やかましくないようなこともせなあかんし、時間を考えるとかね。なかなか難しいとき思うんですけどね。そこを地域の人とコミュニケーションを取っていく。ということは、あとはこの近くの自治会を巻き込んでね。逆にいうたら。自治会を巻き込まない駄目ですよ、こういったところだったら。連合会長をいかに使っていくか。それは区役所の方一番得意だと思うんでね。連合会長をいかにね。

【寺川議長】

マンションは連合会に入っはるんですか。

【宮本政策企画担当課長】

ここはちょうど地域の間で。言ってみたら三つの地域のどこもが使えるかもしれない。どこも隣接しているけれど、どこも使えるかもしれないという可能性を持った広場に。駅からも近いしという、ちょっと利点があるかもしれない広場ですね。

【寺川議長】

西村委員、一緒にできるワークショップなんかで、つながる拠点として発信すれば面白いかもしれませんね。にぎわいとか魅力をつくる市民協働の拠点みたいな、そういう場所。

【山田副議長】

できるだけ地域を巻き込んでね。連合会長をうまいこと使えばいいですよ。それでまた燃える連合会長もおられるから。

【寺川議長】

じゃ、次の区政会議のときにぜひ巻き込んでいただけると。ありがとうございます。

では、今日、議題(1)、(2)、(3)とありましたが、全体を通じて皆さんから言い忘れたとか言い逃した、これちょっと聞きたいとかいうことがありましたらご意見いただきたいんですが、いかがでしょうか。

【早光委員】

確認だけで。すみません。先ほどの青少年育成のところで、市の経済戦略局が3年の重点事業でやっていて、次の3年度というのは何かあるんですか。採択された点。区で何かこういう。新しい3年は何かあるんですか。この芸術は終わったかもしれませんが。

【宮本政策企画担当課長】

この事業はもう終わってしまいましたので、続きはないです。

【早光委員】

何もないんですね。

【宮本政策企画担当課長】

はい。

【早光委員】

分かりました。ありがとうございます。

【寺川議長】

ほかいかがですか。

では、一応今日皆さんからお話いただきました。本当にありがとうございました。まず1番目の振り返りについては、やはり年度の最後あたりコロナの問題でなかなかできなかったという状況もありましたけれども、皆さんの意見としましては、実践したことをもう少し継承できる、継続できる仕組みをぜひ次年度も考えてほしいと。予算の問題があって、今の経済戦略局の話もあるかと思うんですが、いろいろ工夫してお金もかけずにやれることもあるんじゃないかということでしたので、それについてぜひちょっと

ご検討いただきたいということだったかと思います。

それから、次のビジョンにつきましては、幾つか議論はいただきましたが、まずこの区の魅力としてやっぱり川辺ですよ。ウォーターフロントの魅力をアップするという意味でいうと、今の現状もやっぱり把握しないといけないですし、国とか行政機関にはそうなんでしょうけれども、区としてこの川辺をどうしていくのか、いろいろな制度もあって、やっておられることも多いんですけども、それをもう少し見える化していくと。魅力アップするための使い方とか景色景観とか、それから市民の参加の在り方とか、それから民間の企業とのつながり方とか、これをちょっと具体化していく必要があるだろうという意見があったかと思います。

それから二つ目としては、情報コンテンツをどのようにしていくかと。情報発信というのはこの間ずっとやってこられたとは思いますが、もう少し違った視点でコンテンツそのものを少し見直していく必要があるだろうと。特に新型コロナの状況もある中で、情報のつなぎ方という新しい仕組みも出てくるだろう。当然アナログのチラシとかビラとかも同時並行しながら、コンテンツを見直した中での情報発信の仕方をもっと少し具体化していく必要があるんじゃないかというお話があったかと思います。

それから三つ目としては、特に最後にその他と出ていましたけれども、あの場所が具体的に動く事業として今ここで提案されましたので、そういう意味でいいますと、三つの町会がつながって行って、新旧住民もおられたり、あの場所がどうなっていくかというのは、公園じゃなくて広場として、区が管理運営できる拠点でもありますので、そういう意味でいうと参加のデザインというか、区民をつなぐようなそういうきっかけの場としてにぎわいとか魅力をつくる、そういう見える化するような拠点としてつないでいくというのは一つ方法としてあるんじゃないかなというご意見をいただいたかなと思います。

皆さん、お時間ない中いろいろご議論いただきました。ありがとうございます。これで一応三つの議題については閉じさせていただきたいと思います。

ほかいかがですか。

では、今日予定しておりました議題これで終了いたしましたので、事務局のほうにお返ししたいと思います。

#### 【笠谷政策企画担当課長代理】

本日は、議長、副議長をはじめ各委員の皆様方におかれましては、長時間ご議論いただきまして誠にありがとうございました。

それでは、最後に区長の大畑から一言ご挨拶させていただきます。

#### 【大畑区長】

今日は本当に活発なご意見いただいて本当にありがとうございました。私も本当に勉強になるというか、たくさんの気づきがありました。

議長のほうが最後まで読んでいただいたんですが、私もちょっと経緯や流れで少しお話しさせていただくと、去年着任して、皆さんと同じようにやっぱり僕も貴志康一さんと与謝蕪村だけで果たしていいのかなと。最初に僕自身も着任したときに思った疑問なんですね。それで、その中で、ちょうど城北公園通駅ができるので、やっぱりその北の部分をもっと強化していきたい。一つが、コンテンツに出ていたんですが、

城北公園通駅の高架下アートプロジェクトということで、トンネル壁画というのを一つやりまして、魅力発信ということで、これから北側の魅力ということもまだまだいろんなコンテンツをこれから探していかなければいけないというのは改めて思っていますし、今現在進行形で城北公園通駅周辺をこれからどうしていこうかという話も出ていますので、また引き続き皆さんのご意見を参考にしながらやっていきたいと思えます。

また、今後のコンテンツということでは、やっぱり僕自身は、イオンの再開発で5年から10年かけて大きく都島の中心である京橋が変化していく中で、どれだけ区の意見を取り入れていきながらすばらしい駅前にしていけるかなという大きな一つ課題があります。そんな中で、実は、以前も議長にもお話ししたんですが、京橋がハブ、都島区が大阪のハブとして、京橋を起点にいろんなところに行けるすばらしい町というのが一つテーマなのかな。そのためにはたくさんの方が集まってきてほしいと。その中で、インバウンドということで外国人の方がたくさん来てくれるために、やっぱり音楽とかアートとかそういうのが必要かなと実は僕自身も思っていたんですね。ライブハウスの音楽系のライブなんかもたくさん京橋でできたらと思っていた矢先のコロナでして、少しやっぱり方向転換を。長期的にはやっぱり外国人の方とか音楽とかアートとかでいいんですが、先ほど皆さんがおっしゃっていただいたように、接しないでコミュニケーションが取れる方法、オンラインでできる方法ということを早急に近々にいろんなコンテンツで落とし込んでいかないといけないというのは改めて思った次第です。

二つ目の川沿いのまちづくりに関しては、私が着任する前はもっともつごみで汚かったという話を聞いて、やっぱりクリーン作戦である程度ごみはきれいになったと。ただ、能勢委員のご指摘のように、ごみがきれいというのと景観というのはまた違うと思うんですね。きれいなまち並みというのがまだまだこれからなのかなという、僕も大きな気づきが能勢委員のご指摘でありましたので、やっぱりもう一ランク上の都島区を目指して、ごみがない、きれいだけではなくて、少しずつ景観という部分も関係部局と相談しながら今後できることを進めていく必要があるのかなというふうに思っています。一つ核になるのは人工ビーチのあのあたりなのかなと。今年はビーチバレー中止になってしまって残念なんですけど、官民連携のお話も出たんですけど、あの人工ビーチを民間がうまく活用してもらえる方法というのが一つ核になっていながら、川沿いのまちづくりが、新たな景観づくりというのがしていけるのかなというふうに思っております。

最後の広場に関しては、本当にこれから皆さんの意見を取り入れながら、どなたかおっしゃっていただいたように全員の合意というのはなかなか難しいんですが、できるだけたくさんアイデアを取れ入れて、できれば、こんないい広場ができたんだ、よかったと区民の方に喜んでもらえるように、これから一つ一つ仕事を進めていきたいと思えます。

今日は貴重なご意見たくさんいただきました。本当にどうもありがとうございました。

#### 【笠谷政策企画担当課長代理】

本日は誠にありがとうございました。これで区政会議を終了させていただきます。ありがとうございました。